

音楽科学習指導案

指導者 福山市立旭丘小学校 教諭 柿原 清花

- 1 学 年 第5学年A組 男子18名 女子12名 計30名
- 2 場 所 音楽室
- 3 題 材 名 イメージに合う表現の仕方を工夫しよう～私たちの威風堂々～
- 4 教 材 名 「威風堂々 第1番」(エルガー 作曲)「威風堂々」(エルガー 作曲 長谷部匡俊編曲)
- 5 題材の目標

- 曲想をもとに、楽器の組み合わせを工夫したり強弱や速度を工夫したりするなど、表現に対する自分の明確な考えや意図をもち、主体的に器楽の活動に取り組むことができる。
- 楽器の音色や音域、演奏の仕方による音色の変化などの特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏することができる。
- 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くことができる。

6 題材について

(1) 学習指導要領との関わり

第5学年及び第6学年

- A (2) イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。

- B (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

[共通事項] (1) ア (7) 音色、強弱、速度

(2) 題材観

- 本題材は、音色、強弱、速度や曲想とのかかわり合いに気付きながら、曲想やその変化を感じ取って、音楽を想像豊かに聴き、鑑賞を生かして、思いや意図に合う楽器を選択し、強さや速さを変化させるなど、表現方法にこだわりをもって演奏する能力を育てることをねらいとしている。
「威風堂々 第1番」は、「激しく動く部分（アの部分）」と「ゆったりとした動きの部分（イの部分）」という対照的な二つの部分が曲の中で交互に現れており、演奏している楽器や曲想の違いに気を付けて聴きながら、楽曲の構造を理解することができる教材である。
「威風堂々」は、児童に馴染みのある曲であり、各パートの楽器を自由に組み合わせて演奏することができる。鑑賞した曲のイメージを生かして演奏することで、曲への親しみが増し、音色、強弱、速度を工夫することで、思いや意図をもち、主体的に器楽の活動に取り組むことができる教材である。

(3) 児童観

- 本学級の児童は、第1学期に、鑑賞教材「アイネ クライネ ナハトムジーク第1楽章」で楽器の重なり方やその効果に気付き、鑑賞で学んだことを生かして「リボンのおどり（ラ バンバ）」で楽器の重ね方を考え、曲のまとまりを意識した演奏をする学習を行った。その際、楽器による音色の違いに気付くことができたが、7つのパートの音がうまく重ならず工夫までに時間がかかったという課題が残った。

また、第1学期に行ったアンケート結果は以下の通りだった。

どうしてそのような演奏にしたのか、自分の思いや意図をもって歌ったり演奏したりしている。	83%
「めあて」や課題意識をもち、進んで授業に参加している。	83%
友達の意見を聞いて、歌い方や演奏の仕方をさらによりよい音楽表現にしようとしている。	80%
歌い方や演奏の仕方をさらによりよい音楽表現にしようと考え、みんなの前で演奏して表現できる。	67%

アンケート結果から、自分の思いや意図をもって進んで演奏の工夫を行っているが、その思いや意図を全体場で表現するには至っていないことが分かる。その要因は、技能の習得が十分にいかず、自分の演奏に自信をもてない児童が多いのではないかと考える。

(4) 指導観

【題材構成の工夫】

表現「威風堂々」(パートごとに演奏)→鑑賞「威風堂々 第1番」(曲想の変化を感じ取る)→表現「威風堂々」(音色、強弱、速度を工夫した器楽合奏)

- ・「威風堂々」(器楽教材)では、まず楽譜通りに演奏させ、曲想をつかませたり、正しい奏法で演奏させたりする。
- ・「威風堂々 第1番」(鑑賞教材)では、アとイの部分が交互に現れることによる曲想の変化を感じ取らせ、イの部分を器楽合奏にどう生かせるか共通事項をつかんで考える。

- ・「威風堂々」（器楽教材）にもどり、鑑賞教材で学習したことを生かして、「私たちの威風堂々」となるようイメージした曲想に合う楽器を組み合わせたり、思いをより表現できるように音色、速度、強弱を工夫したりして演奏に取り組ませる。

【指導過程の工夫】

指導にあたっては、曲想を味わいながら見通しをもって演奏したり音楽を味わったりできるように、「私たちの威風堂々」を副題に設定し、題材の終わりにラジオ放送で福山市内の人々に発信することをゴールに設定し、意欲をもって学習に取り組ませ、ラジオ放送に向けてどのような学習が必要か考えさせることで、子ども達とともに学習計画を立てていく。

まず、「威風堂々」（器楽教材）をパートごとに演奏する、ピアノ伴奏と合わせる、オーケストラの演奏を聴くなどして、自分達の演奏につなげたいという意欲をもたせる。また、技能を習得させるために、帯タイムや家庭学習で繰り返し5つのパートを演奏させたり、強弱や速度を変えて演奏させたりして技能を高め演奏方法を学ぶことで自信をもたせる。

「威風堂々 第1番」（鑑賞教材）では、曲全体を聴いて、「感じ取ったこと」と「聴き取ったこと」を関わらせながら曲想やその変化を味わわせる。次に、より主体的に活動させるために第一次で演奏した自分達の演奏とオーケストラの曲を比較させ、どのような演奏の工夫ができるか考えさせる。その際、音楽を形づくっている要素（本校では「音楽のまほうの種」と表記する。）と結びつけて捉えさせ、工夫のための視点をもたせる。

「威風堂々」（器楽教材）に戻り、鑑賞で学習したことを自分達の演奏に取り入れ工夫していく。工夫させる前には、グループを3つ編成し、それぞれに表現したいイメージをもたせ、曲想に合う楽器を選択させたり、どのように表現すればイメージに合うかを話し合わせたりする。それぞれの音が混じらないように活動する場所を分け、グループの思いに合う演奏になるように試行錯誤しながら演奏を重ねる。その際、自分達の音が客観的に聴けるように録音し、演奏がイメージに近づいているか確認する。楽譜に強弱、速度などの工夫を書き込んだり、教材提示装置を使って工夫を互いに伝え合ったりする等、主体的に演奏することに関わらせることで、表現方法にもこだわりをもって演奏する力を高め、表現することに自信をもたせたい。

7 評価規準

ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ③楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	①音色、強弱、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①曲想を生かした表現で演奏している。 ②演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏している。	①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。

8 指導と評価の計画（全8時間）【評価方法】 A「行動観察」 B「演奏の聴取」 C「ワークシート」

次	時	教材	学習活動	評価規準 ☆共通事項	評価 方法
第一次（二時間）	1	「威風堂々」	演奏する楽器の特徴を生かして「威風堂々」を演奏しよう。 ○「威風堂々」を演奏する。 ・主な部分をリコーダーで演奏する。 ・伴奏の和音を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・それぞれのパートを合わせて演奏する。	ア② ☆音色	A
	2		学習のゴールを考え、「威風堂々」を演奏しよう。 ○パートごとに鍵盤ハーモニカやリコーダーで演奏する。 ○ラジオ放送に向けて学習計画を立てる。 【学習計画】～私たちの威風堂々～（8時間） ①②まずは「威風堂々」を演奏してみよう。 ③ オーケストラの演奏を聴いてみよう。 ④ オーケストラの演奏を生かしてみよう。 ⑤ イメージに合う演奏になるように工夫しよう。 - その1 楽器を選ぼう ⑥ その2 「音楽のまほうの種」を使って工夫しよう。 ⑦ <u>その3 お互いに聴き合ってもっとよくしよう。</u> ⑧ ラジオ放送に向けて録音しよう。 ☞ ラジオ放送	ウ② ☆音色 ☆速度 ☆強弱	B

			○録音して鑑賞曲のイの部分と聴き比べ、どのような工夫ができるか考える。 ・繰り返しの部分を工夫する。 ・強弱や速度など、曲に変化をつける。		
第二次 (二時間)	3	「威風堂々 第1番」	「威風堂々 第1番」を聴いて、曲の仕組みをつかんで曲想を感じ取ろう。 ○曲の仕組みをつかむ。 ・はじめ→ア→イ→イ→ア→イ→終わり ○全曲を通して聴き、場面ごとに「感じ取ったこと」「聴き取ったこと」を整理する。 ○DVDでオーケストラの演奏を視聴し、曲想をどのように表現して演奏しているか考える。 ・楽器が加わると曲が広がった感じがする。	ア③エ① ☆音色 ☆速度 ☆強弱	A, C
	4		感じた曲想をどのように演奏に生かせるか考えよう。 ○イの部分を中心に聴き、オーケストラの演奏と自分達の演奏を比べ、グループを編成し、表現したいイメージを考える。 ・1回目のイのゆったり堂々としたイメージ ・2回目のイの明るく華やかなイメージ ・3回目のイの迫力があるイメージ	エ① ☆音色 ☆速度 ☆強弱	A, C
第三次 (四時間)	5	「威風堂々」	楽器の組み合わせを工夫し、パートの人数や役割を決めて演奏しよう。 ○楽器の組み合わせを工夫する。 ・主な旋律は滑らかな感じにするために、リコーダーで演奏する。 ・和音で曲の響きを支えるために、低音パートはバスキーボードやオルガンで演奏する。 ○パートごとの人数やパートを決め演奏する。	ア①イ① ☆音色	B, C
	6		イメージに合う演奏になるように、どのように工夫すればよいか考えよう。 ○イメージから演奏方法を考える。 ・迫力がある感じを出す。→最後に速さを遅くして溜める部分をつくる。 ・華やかな感じを出す。→速いテンポで演奏し、最後を強くする。 ・堂々とした感じを出す。→2回目の繰り返し部分を強くする。 ○グループに分かれ、演奏の仕方を工夫し、演奏を聴き合いアドバイスをする。 ・強弱だけでなく、音色も考えて、パートの人数を変えたり、打楽器を取り入れたりする。	イ① ☆音色 ☆速度 ☆強弱	A, B, C
	7 (本時)		たがいに聴き合って、「私たちの威風堂々」になるように演奏を工夫しよう。 ○グループごとに演奏し、思いや意図に合う演奏になっているか聴き合う。 ・1回目と2回目でパートの人数も変えてより強弱を付ける。 ・打楽器を入れて、演奏をより迫力ある感じにする。 ○アドバイスをもとに、よりよい演奏になるように工夫する。 ○工夫したそれぞれのグループの表現方法で演奏し、感想を伝え合う。	イ① ☆音色 ☆速度 ☆強弱	A, B, C
	8		「私たちの威風堂々」を演奏しよう。 ○各グループで表現の工夫を確認しながら演奏する。 ○どのような思いや意図で工夫したかをみんなに伝え、「私たちの威風堂々」を演奏し、ラジオ放送に向けて録音する。	ウ①② ☆音色 ☆速度 ☆強弱	B

9 本時の目標（本時 7／8 ）

それぞれのグループの演奏を聴き合い、自分達だけの「私たちの威風堂々」になるように演奏を工夫することができる。

10 本時の展開

	学習内容と学習活動（○） 予想される児童の姿（・）	指導上の留意点（○） つまずきへの支援（・）	評価規準【評価方法】
つかむ	1 課題意識をもつ。 ○音楽係が前時の振り返りを行う。 ・前はイメージに合う表現の方法をグループごとに考え演奏した。 2 本時のめあてを確認する。	○前時に録音した演奏を聴き、「私たちの威風堂々」という本時のゴールに向けて意欲をもたせる。	
	互いに聴き合って、「私たちの威風堂々」になるように演奏を工夫しよう。		
考える	3 学習の見通しをもつ。 ○本時の学習内容を確認する。 ①前時に考えた工夫をグループごとに発表して演奏する。 ②アドバイスをもとにさらに工夫する。 ③「私たちの威風堂々」を演奏する。 4 グループごとに工夫を発表して演奏し、アドバイスを伝える。 ○発表して演奏する。 ・（Aグループ） 迫力のあるイメージを表現するために、強弱と速度をつけて、最後を一番強くゆっくり演奏する。 ○アドバイスをやる。 ・（Aグループ） 楽器を強く弾くだけだと強弱が分かりにくいので、パートの人数を変えてみる。	○本時の流れを提示し、見通しをもって学習に取り組ませる。 ○前時でどの音楽のまほうの種を活用して考えたか確認する。 【音楽のまほうの種：音色、速度、強弱】 ○表現したいイメージと工夫の方法を伝えて演奏する。 ○各グループで書き込んだワークシートの楽譜を教材提示装置で提示し、工夫を見えやすくする。 ○より工夫できるように、互いにアドバイスをやる。 ○同じようなイメージでも、工夫の仕方により演奏に違いが出ることを伝え、そのグループ独自の「威風堂々」になるように更に工夫を考えさせる。	
練り合う	5 アドバイスをもとに、「私たちの威風堂々」になるように工夫する。 ・（Aグループ） 1回目と2回目でパートの人数を変えて、更に強弱がはっきり分かるようにして迫力を出す。 ・（Bグループ） 華やかなイメージが表現できるように、2回目の終わり4小節に大太鼓を取り入れる。 ・（Cグループ） 堂々としたイメージになるように、最初に主な旋律の1パートと低音の5パートだけで演奏し、後から他のパートが加わる。	○3つのグループで音が混じらないように活動場所を分けて取り組ませる。 ・工夫の仕方に悩んでいるグループは、第1学期に学習した「リボンのおどり」や鑑賞で学習したことを想起させたり、2回目の繰り返しの部分を意識して工夫させたりする。 ○話し合い→演奏を繰り返し行い、より思いや意図に合う演奏にさせる。 ○打楽器を入れたいグループは、どこに何を入れるのか、5つのパートとの重なりを考えながら決める。	音色、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。
まとめる	6 互いの演奏を聴き合う。 ・（Aグループ） 2回目に1パートの人数を増やしたから強弱がはっきりして厚みが増した。 7 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。	○音楽室に集まって聴き合う。 ○感想を伝え合う。 ○本時のめあてを振り返り、ワークシートに記入させる。	【評価方法】 行動観察、演奏の聴取、ワークシート
	児童のまとめ例 （Aグループ）「私たちの威風堂々」にするために、2回目に1パートの人数を増やし、強弱をはっきりさせ、より迫力のある演奏になった。		
		○次時で録音することを確認する。	

